

# 佐川町加茂管理型産業廃棄物最終処分場

## 環境影響評価準備書のあらまし

令和3年9月

高知県

公益財団法人 エコサイクル高知

### ◎経 過

平成 23 年 10 月、県及び市町村等の出えんにより設立した財団法人エコサイクル高知（現在は公益財団法人に移行）が建設した県内唯一の管理型産業廃棄物最終処分場エコサイクルセンターが、高岡郡日高村本村に開業しました。

エコサイクルセンターは、埋立期間を約 20 年として計画されましたが、廃棄物の埋立てが計画を大幅に上回るペースで進行しており、このペースで埋立てが進むと計画よりも早く埋立てが終了する状況となっています。

このため、高知県では、平成 29 年 3 月に「高知県における今後の管理型産業廃棄物最終処分のあり方に関する基本構想」（以下「基本構想」という。）を策定し、この中で、新たな施設を公共関与の手法により整備する必要があること、また、候補地選定にあたっては、コンサルタントの活用及び有識者による選定委員会の設置により候補地を絞り込み、最終的には地元合意を得たうえで新たな施設の整備を進めることとしました。

この基本構想に基づき、平成 29 年度に新たな施設の整備に適した最終候補地 3 箇所を選定し、その後、平成 30 年度に実施した 3 箇所の現地調査結果等を踏まえ、平成 30 年 12 月に、県として、佐川町加茂を施設整備に最も適した箇所として絞り込みました。その後、佐川町の皆様に、施設の受け入れについてご理解を得られるよう住民説明会等の様々な取り組みを進め、令和元年 5 月に県として佐川町加茂を建設予定地とすることを決定し、佐川町及び佐川町議会に受け入れを申し入れました。その後、同年 6 月に佐川町及び佐川町議会に施設の受け入れを決定していただきました。

同年 7 月に県と佐川町で「確認書」を締結して以降、測量や設計、環境影響評価などの「施設整備に向けた調査」及び長竹川の増水対策などの「周辺安全対策」の取り組みを進めているところです。

### ◎目 的

本事業は上記の経過を踏まえ、エコサイクルセンターの埋立終了時期までに、佐川町加茂地区において、新たな管理型産業廃棄物最終処分場を整備し、県内の産業振興や経済活動を下支えすることを目的として実施します。



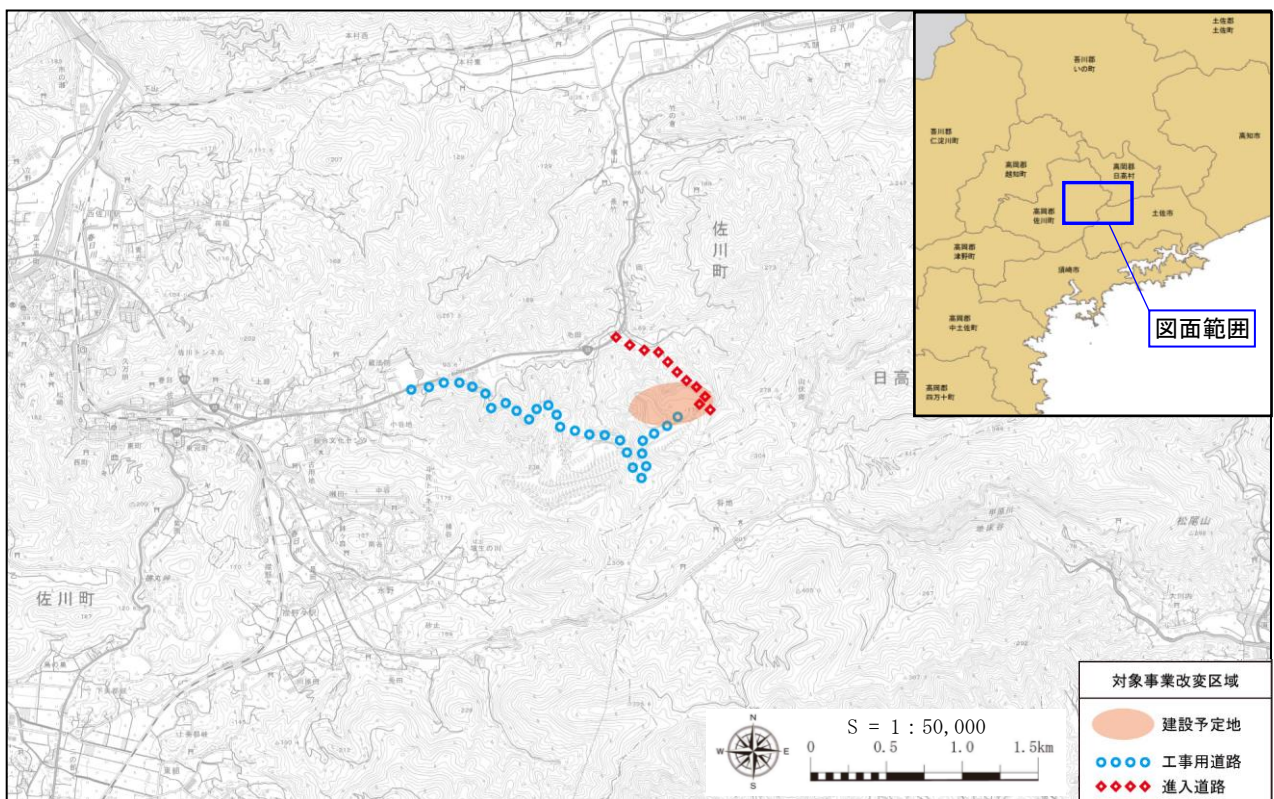
現行施設 エコサイクルセンター（日高村）



佐川町加茂管理型産業廃棄物最終処分場 建設予定地

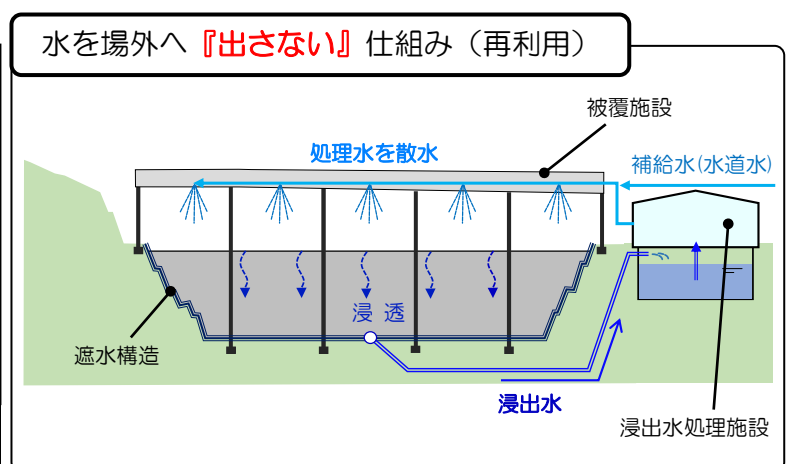
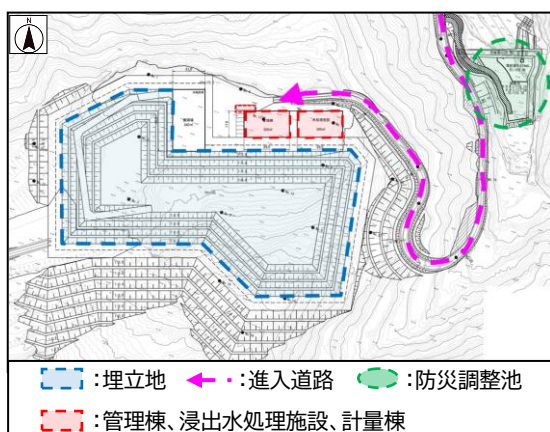
## 施設の概要

事業の名称	(仮称)佐川町加茂管理型産業廃棄物最終処分場整備事業
建設予定地	高知県高岡郡佐川町加茂
対象事業の種類	管理型産業廃棄物最終処分場の整備事業
埋立期間	20年
埋立面積	設計・計画中
廃棄物埋立容量	172,000m <sup>3</sup>
工事着工時期	令和3年度(予定)
施設供用開始時期	令和5年度(予定)



※この地図は、国土地理院発行の2.5万分の1地形図を使用し、50%で表示しています。

### 【施設のイメージ】※基本設計段階





# 環境影響評価の概要

## 対象事業に係る環境影響評価の項目

環境影響評価項目は、「廃棄物の最終処分場事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」（平成10年6月12日厚生省令第61号、最終改正：平成27年5月29日環境省令第24号）を参考とし、本事業の事業特性及び地域特性を踏まえて、下表のとおり選定しました。

- ◎：環境影響評価項目として選定するもの（調査を実施し、施設整備に伴う影響を評価）
- ：環境影響評価項目として選定せず、現地測定のみを実施するもの（施設開業後に行う環境モニタリングにより、得られるデータと比較するために、施設整備前のデータを測定）

環境要素の区分			環境要因の区分		工事の実施（工事中）			土地又は工作物の存在及び供用（供用時）					
			建設機械の稼働	資材、機械及び建設事に伴う副産物の運搬に用いる車両の運行	造成等の施工	最終処分場の存在	埋立・覆土用機械の稼働	浸出水処理設備の稼働	搬入用いる車両の運行	廃棄物及び覆土材の運搬	廃棄物の存在・分解	浸出液処理水の排出※	
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気環境	大気質	二酸化窒素（NO <sub>2</sub> ）	◎	◎						◎		
			浮遊粒子状物質（SPM）	◎	◎						◎		
			粉じん（降下ばいじん）	◎	◎			◎			◎		
		騒音	◎	◎			◎	◎		◎			
		振動	◎	◎			◎	◎		◎			
	水環境	水質	水の濁り			◎							○
			水の汚れ										○
			有害物質等										○
		地下水	地下水の流れ			◎	◎						
	土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質			◎	◎						
		土壌	土壌汚染			○						○	
	生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	動物	重要な種及び注目すべき生息地			◎	◎					◎	
		植物	重要な種及び群落			◎	◎					◎	
		生態系	地域を特徴づける生態系			◎	◎					◎	
	人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観					◎					
人と自然との触れ合いの活動の場		主要な人と自然との触れ合いの活動の場											
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物等	建設工事に伴う副産物											
	温室効果ガス等	メタン											
		二酸化炭素											
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき環境要素	放射線の量	放射線の量（粉じん等の発生に伴うもの）	○	○			○			○			
		放射線の量（水の濁りの発生に伴うもの）			○								
		放射線の量（建設工事に伴う副産物に係るもの）			○								

※本施設は、浸出液（水）処理水の排出を行わない無放流循環型の施設です。

◎大気質

1.環境の現況(現地調査の結果)

調査項目	調査地点	調査結果				基準等との整合性
		冬季	春季	夏季	秋季	
NO <sub>2</sub> (ppm)	長竹公民館	0.004	0.003	0.001	0.003	○
SPM(mg/m <sup>3</sup> )		0.009	0.017	0.045	0.017	○
粉じん (降下ばいじん) (t/km <sup>2</sup> /月)		0.9	1.99	0.24	0.81	○
	建設予定地	1.14	1.9	0.3	0.56	○

【基準等の目標値】

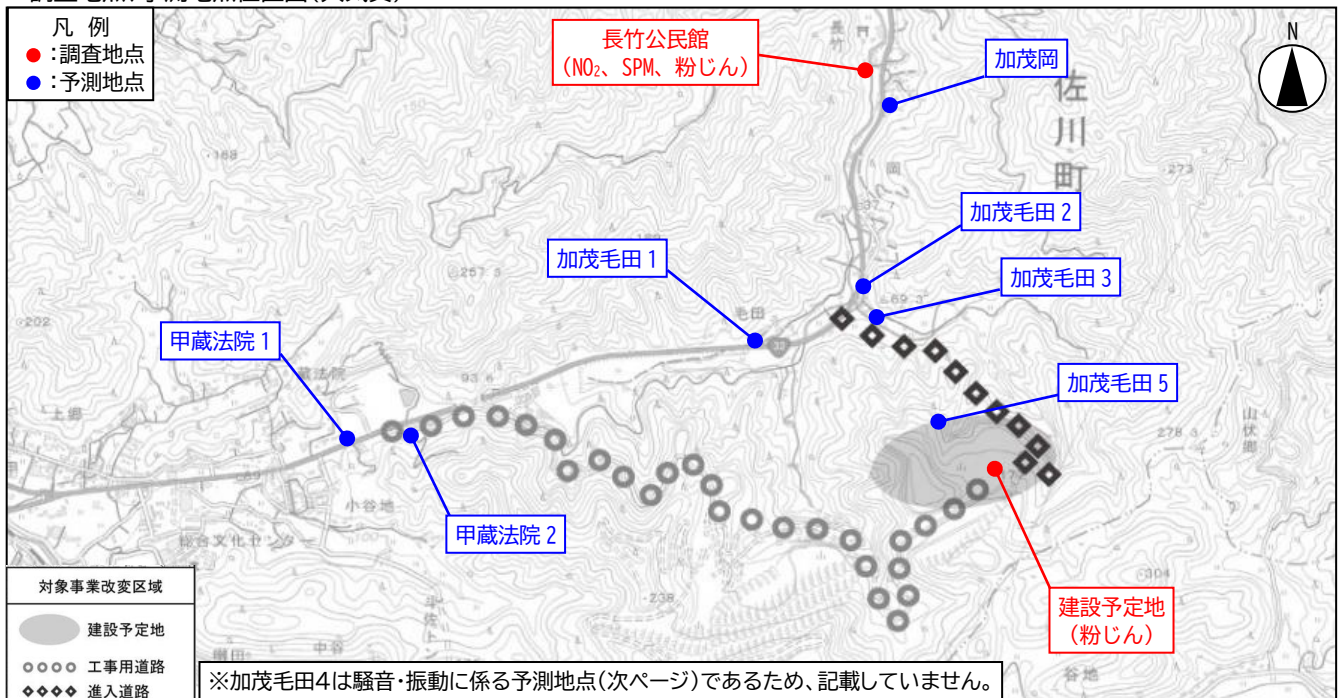
NO<sub>2</sub> : 1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること  
 SPM : 1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m<sup>3</sup> 以下であり、かつ、1 時間値が 0.2mg/m<sup>3</sup> 以下であること  
 粉じん (降下ばいじん) : 10t/km<sup>2</sup>/月未満

2.予測・評価の結果

項目		予測位置	予測結果	基準等との整合性	評価結果	
工事中	建設機械の稼働	NO <sub>2</sub> (ppm)	0.011	○	本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測され、環境への影響は実施可能な範囲で回避又は低減が図られていると評価しています。	
		SPM(mg/m <sup>3</sup> )	0.045	○		
		粉じん(t/km <sup>2</sup> /月)	0.3~3.0	○		
	資材、機械及び建設工事に伴う副産物の運搬	NO <sub>2</sub> (ppm)	加茂毛田 : 2箇所	0.014~0.016		○
			加茂岡 : 1箇所	0.015		○
			甲蔵法院 : 2箇所	0.013~0.014		○
		SPM(mg/m <sup>3</sup> )	加茂毛田 : 2箇所	0.054		○
			加茂岡 : 1箇所	0.054		○
			甲蔵法院 : 2箇所	0.053~0.054		○
粉じん(t/km <sup>2</sup> /月)	加茂毛田 : 1箇所	0.2~1.6	○			
	甲蔵法院 : 1箇所	0.6~3.5	○			
供用時	廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行	NO <sub>2</sub> (ppm)	加茂毛田 : 3箇所	0.013~0.016	本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測され、環境への影響は実施可能な範囲で回避又は低減が図られていると評価しています。	
			加茂岡 : 1箇所	0.015		○
			甲蔵法院 : 1箇所	0.014		○
	SPM(mg/m <sup>3</sup> )	加茂毛田 : 3箇所	0.053~0.054	○		
		加茂岡 : 1箇所	0.054	○		
		甲蔵法院 : 1箇所	0.054	○		
	粉じん(t/km <sup>2</sup> /月)	加茂毛田 : 1箇所	0.1~0.3	○		
埋立・覆土用機械の稼働	粉じん(t/km <sup>2</sup> /月)	加茂毛田 : 2箇所	0.1 未満~1.6	○	本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測され、環境への影響は実施可能な範囲で回避又は低減が図られていると評価しています。	

【検討を行う環境保全措置】  
 ○工事中：散水、工事の分散

<調査地点、予測地点位置図(大気質)>



◎騒音

1.環境の現況

調査地点	調査結果 (dB(A))					基準等との整合性
	項目	朝	昼間	夕	夜間	
建設予定地	L <sub>A5</sub>	43	40	32	30未満	
集落(直近地点)	L <sub>Aeq</sub>		44		42	○
集落(代表地点)			42		34	○
工事用道路入口			69		61	○
進入道路入口			67		59	○

※時間帯 L<sub>A5</sub>:朝6:00~8:00 昼8:00~19:00 夕19:00~22:00 夜22:00~翌6:00  
L<sub>Aeq</sub>:昼間6:00~22:00 夜間22:00~翌6:00

【環境基準等の目標値】  
○建設機械、埋立・覆土用機械  
L<sub>A5</sub> 85dB以下  
(特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準)  
○浸出水処理施設  
L<sub>A5</sub> 昼間65dB以下 朝夕60dB以下 夜間55dB以下  
(指定地域の特定工場等の騒音の規制基準)  
○資材、機械及び副産物の運搬、廃棄物及び覆土材の運搬  
L<sub>Aeq</sub> 昼間55dB以下(環境基準(一般地域))  
or  
昼間70dB以下  
(環境基準(幹線交通を担う道路に近接する空間))

2.予測・評価の結果

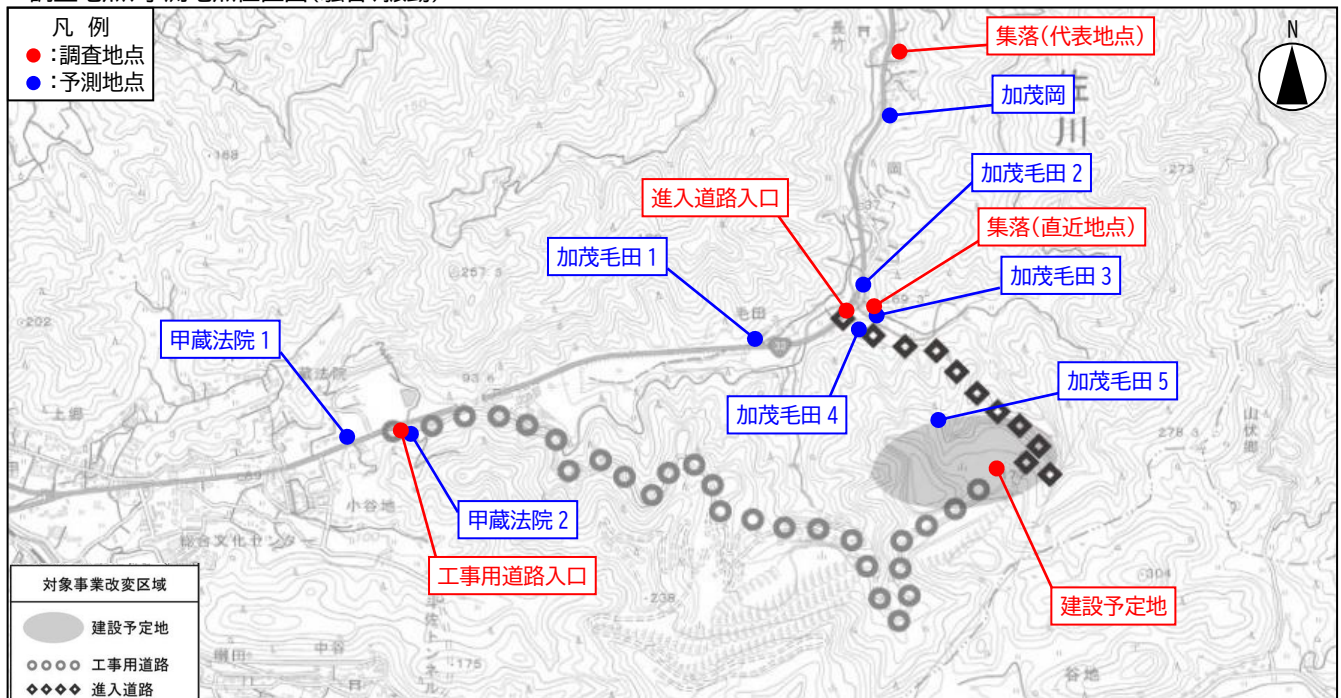
項目		予測位置	予測結果 (dB)	基準等との整合性	評価結果	
工事中	建設機械の稼働 (L <sub>Aeq</sub> , L <sub>A5</sub> )	加茂毛田3	L <sub>Aeq</sub> 50 (57)	○(×)	1地点で、基準等を超過したため、環境保全措置(防音シートの設置)を講じた上で事業を実施します。このことで、全ての地点で基準等を満足し、本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測され、環境への影響は実施可能な範囲で回避又は低減が図られていると評価しています。 ※( )内は環境保全措置(防音シート設置)実施前の結果	
		加茂毛田4	L <sub>A5</sub> 82	○		
	資材、機械及び建設工事に伴う副産物の運搬に用いる車両の運行 (L <sub>Aeq</sub> )	加茂毛田: 2箇所	67	○		
		加茂岡: 1箇所 甲蔵法院: 2箇所	67 54~69	○ ○		
供用時	埋立・覆土用機械の稼働 (L <sub>A5</sub> )	加茂毛田5	55	○	本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測され、環境への影響は実施可能な範囲で回避又は低減が図られていると評価しています。	
	浸出水処理施設の稼働 (L <sub>A5</sub> )	加茂毛田5	朝夕	48		○
			昼	49		○
			夜	46		○
	廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行 (L <sub>Aeq</sub> )	加茂毛田: 3箇所	45~67	○		
		加茂岡: 1箇所	67	○		
甲蔵法院: 1箇所		69	○			

【実施予定の環境保全措置】

○工事中:防音シートの設置、低騒音型・超低騒音型機械の採用、集中的な建設機械の稼働を回避、一般道に集中しない車両運行計画の検討

※浸出水処理施設の稼働以外の項目は、施設の稼働時間を考慮し、昼間の数値を掲載しています。

<調査地点、予測地点位置図(騒音、振動)>





◎振 動

1.環境の現況

調査地点	調査結果 (dB)			基準等との整合性
	項目	昼間	夜間	
建設予定地	L <sub>10</sub>	30 未満	30 未満	○
集落 (直近地点)		30 未満	30 未満	○
集落 (代表地点)		30 未満	30 未満	○
工所用道路入口		31	30 未満	○
進入道路入口		30	30 未満	○

※時間帯 昼間 8:00~19:00 夜間 19:00~翌 8:00

【環境基準等の目標値】

- 建設機械、埋立・覆土用機械  
L<sub>10</sub> 75dB 以下  
(特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準)
- 浸出水処理施設  
L<sub>10</sub> 昼間 65dB 以下 夜間 60dB 以下  
(指定地域の特定工場等の振動の規制基準)
- 資材、機械及び副産物の運搬、廃棄物及び覆土材の運搬  
L<sub>10</sub> 昼間 65dB 以下 夜間 60dB 以下  
(道路交通振動の限度)

2.予測・評価の結果

項 目		予測位置	予測結果 (dB)		基準等との整合性	評価結果
工事中	建設機械の稼働 (L <sub>10</sub> )	加茂毛田：2箇所	35~50		○	本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測され、環境への影響は実施可能な範囲で回避又は低減が図られていると評価しています。
	資材、機械及び建設工事に伴う副産物の運搬に用いる車両の運行 (L <sub>10</sub> )	加茂毛田：2箇所	30		○	本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測され、環境への影響は実施可能な範囲で回避又は低減が図られていると評価しています。
		加茂岡：1箇所	30		○	
		甲蔵法院：2箇所	31		○	
供用時	埋立・覆土用機械の稼働 (L <sub>10</sub> )	加茂毛田 5	30 未満		○	本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測され、環境への影響は実施可能な範囲で回避又は低減が図られていると評価しています。
	浸出水処理施設の稼働 (L <sub>10</sub> )	加茂毛田 5	昼間	30 未満	○	本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測され、環境への影響は実施可能な範囲で回避又は低減が図られていると評価しています。
			夜間	30 未満	○	
	廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行 (L <sub>10</sub> )	加茂毛田：3箇所	31~32		○	本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測され、環境への影響は実施可能な範囲で回避又は低減が図られていると評価しています。
加茂岡：1箇所		31		○		
		甲蔵法院：1箇所	32		○	

【実施予定の環境保全措置】

○工事中 低振動型機械の採用、集中的な建設機械の稼働を回避、一般道に集中しない車両運行計画の検討

※浸出水処理施設の稼働以外の項目は、施設の稼働時間を考慮し、昼間の数値を掲載しています。

◎ 悪 臭

1. 環境の現況

調査項目	調査地点		基準値との整合性
	1.建設予定地	2.長竹公民館前	
アンモニア	0.2 未満	0.2 未満	○
メチルメルカプタン	0.0002 未満	0.0002 未満	○
硫化水素	0.002 未満	0.002 未満	○
硫化メチル	0.01 未満	0.01 未満	○
二硫化メチル	0.0009 未満	0.0009 未満	○
トリメチルアミン	0.0005 未満	0.0005 未満	○
アセトアルデヒド	0.005 未満	0.005 未満	○
プロピオンアルデヒド	0.005 未満	0.005 未満	○
ノルマルブチルアルデヒド	0.0009 未満	0.0009 未満	○
イソブチルアルデヒド	0.002 未満	0.002 未満	○
ノルマルバルブアルデヒド	0.0009 未満	0.0009 未満	○
イソバルブアルデヒド	0.0003 未満	0.0003 未満	○
イソブタノール	0.09 未満	0.09 未満	○

※単位（特定悪臭 22 物質）：ppm

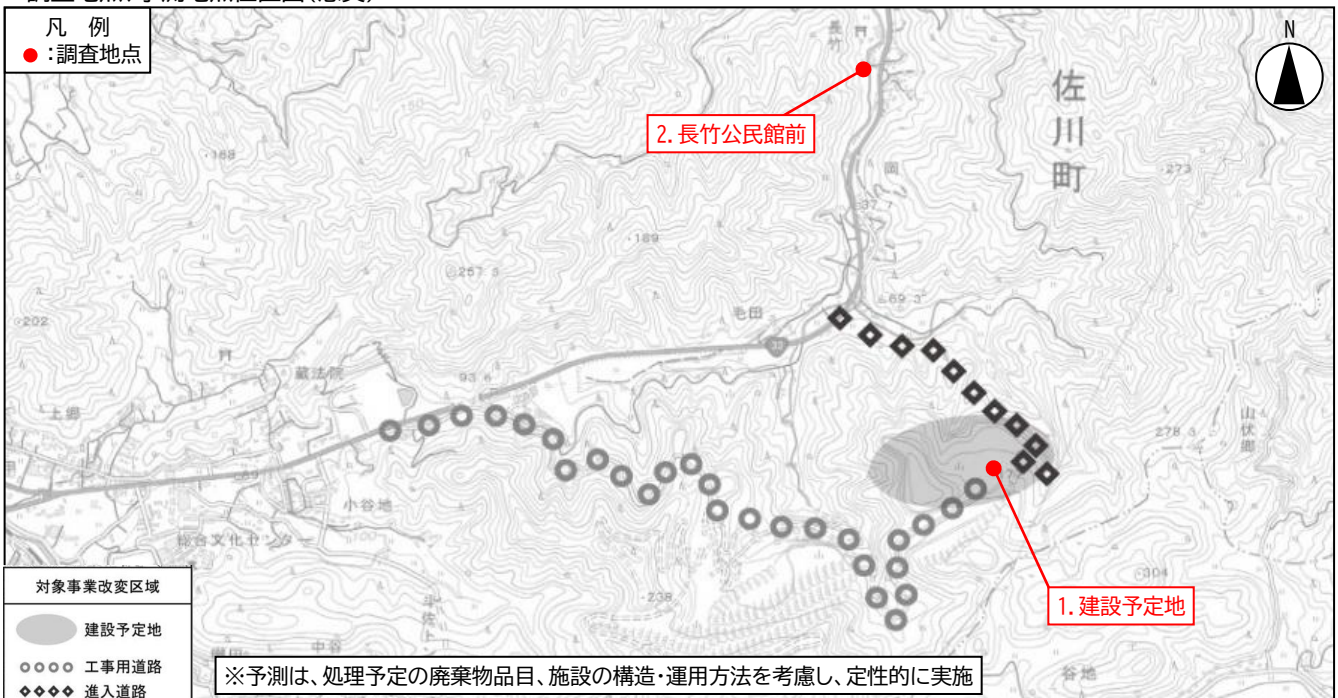
調査項目	調査地点		基準値との整合性
	1.建設予定地	2.長竹公民館前	
酢酸エチル	0.3 未満	0.3 未満	○
メチルイソブチルケトン	0.1 未満	0.1 未満	○
トルエン	1.0 未満	1.0 未満	○
スチレン	0.04 未満	0.04 未満	○
キシレン	0.1 未満	0.1 未満	○
プロピオン酸	0.003 未満	0.003 未満	○
ノルマル酪酸	0.0001 未満	0.0001 未満	○
ノルマル吉草酸	0.00009 未満	0.00009 未満	○
イソ吉草酸	0.0001 未満	0.0001 未満	○
臭気濃度（臭気指数）	10 未満	10 未満	○

【環境基準等の目標値】  
○「悪臭防止法による規制地域の指定等（高知県告示）」に規定された基準値以下

2. 予測・評価の結果

予測結果	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>搬入される廃棄物は、有害物や腐敗物が含まれていない等の受入基準を満たすもののみを受入れることとしています。</li> <li>埋立てた廃棄物には、本来、義務付けはありませんが、中間覆土を行います。</li> <li>本施設は、クローズドシステムを採用するため、周辺に影響を及ぼすことはないと推測されます。</li> <li>よって、本事業の実施による環境への「影響はない」と予測されました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入廃棄物の検査をより厳格化し、受入基準を満たさない廃棄物の混入を未然に防止することにより、想定を上回る悪臭の発生を回避する方針としています。</li> <li>よって、環境への影響は、<b>回避又は低減が図られている</b>と評価しています。</li> </ul>

< 調査地点、予測地点位置図(悪臭) >





## ◎水質

### 1.環境の現況

#### 河川の調査結果（概要）

調査項目	調査結果
<生活環境基準項目> ⇒水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境の保全を目的に設定されており、最も基本的な水質項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・pH（水素イオン濃度）</li> <li>・BOD（生物化学的酸素要求量）</li> <li>・SS（浮遊物質量）</li> <li>・大腸菌群数 等</li> </ul>
<健康項目> ⇒水質汚濁に係る環境基準のうち、人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カドミウム</li> <li>・鉛</li> <li>・ヒ素</li> <li>・水銀 等</li> </ul>
<その他の項目（参考指標）> ⇒上記項目以外で、参考のため把握した項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EC（電気伝導率）</li> <li>・カリウムイオン</li> <li>・重炭酸イオン 等</li> </ul>

※大腸菌群数が超過した調査地点には環境基準が設定されていません。

#### 河川（農業用水関連）の調査結果（概要）

調査項目	調査結果
<農業用水基準> ⇒農業（水稲）用水基準は法的な基準ではないものの、農作物被害と各基準値の関係等から設定された基準であり、農業用水指標として利用されています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・pH（水素イオン濃度）</li> <li>・COD（化学的酸素要求量）</li> <li>・SS（浮遊物質量）</li> <li>・DO（溶存酸素量）</li> <li>・銅含有量 等</li> </ul>

#### 【環境基準等の目標値】

- 「水質汚濁に係る環境基準について（環境庁告示）」に規定された基準値以下
- 「地下水の水質汚濁に係る環境基準について（環境庁告示）」に規定された基準値以下
- 「農業用水（水稲）基準（農林省公害研究会）」に規定された基準値以下
- 「排水基準を定める省令（総理府令）」に規定された基準値以下

### 2.予測・評価の結果

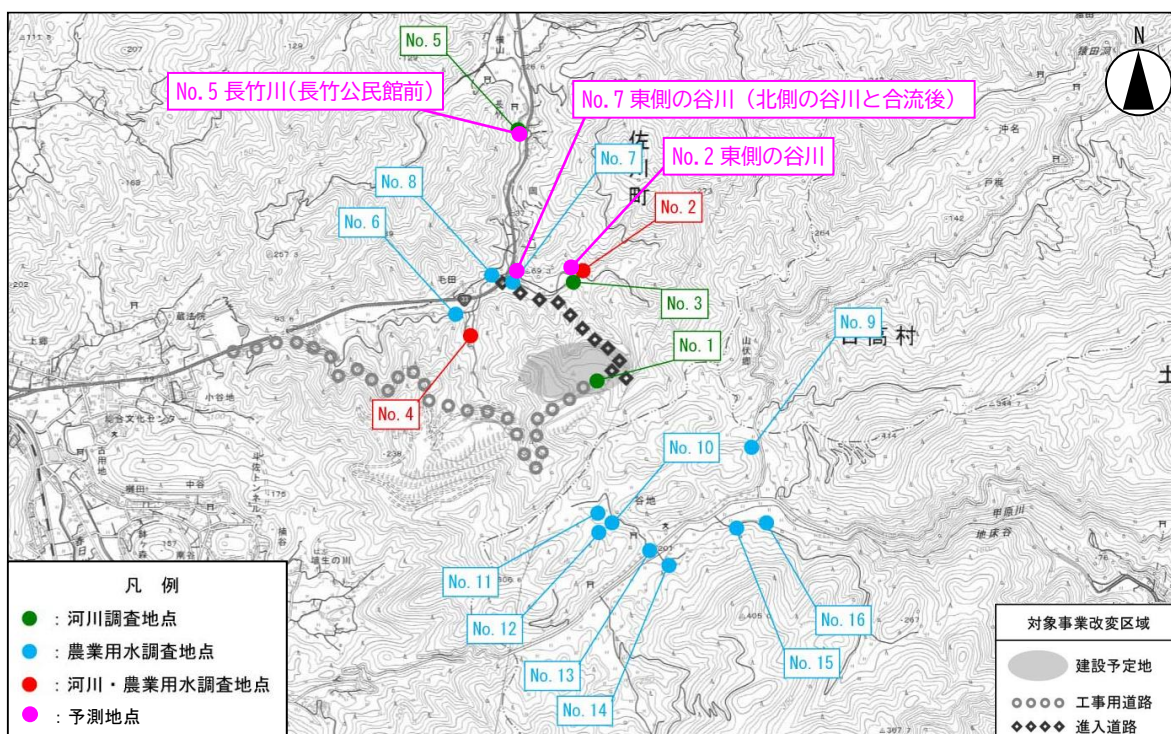
項目	予測位置	予測結果 (mg/L)	目標値との整合性	評価結果
SS (浮遊物質量)	No.2 東側の谷川	7.8 (141)	○(×)	2地点で、基準等を超過したため、環境保全措置（沈砂池の設置）を講じた上で事業を実施します。このことで、全ての地点で基準等を満足し、本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測され、環境への影響は実施可能な範囲で回避又は低減が図られていると評価しています。
	No.5 長竹川（長竹公民館前）	17	○	
	No.7 東側の谷川（北側の谷川と合流後）	5.8 (72)	○(×)	

#### 【実施予定の環境保全措置】

○工事中：沈砂池の設置、仮締切、切り直し水路の設置、裸地の養生（ビニールシートの設置）、切土面の早期保護

※（ ）内は環境保全措置実施前の予測結果。

#### <調査地点、予測地点位置図(水質)>



## ◎地下水

### 1.環境の現況

#### 地下水（水質）の調査結果

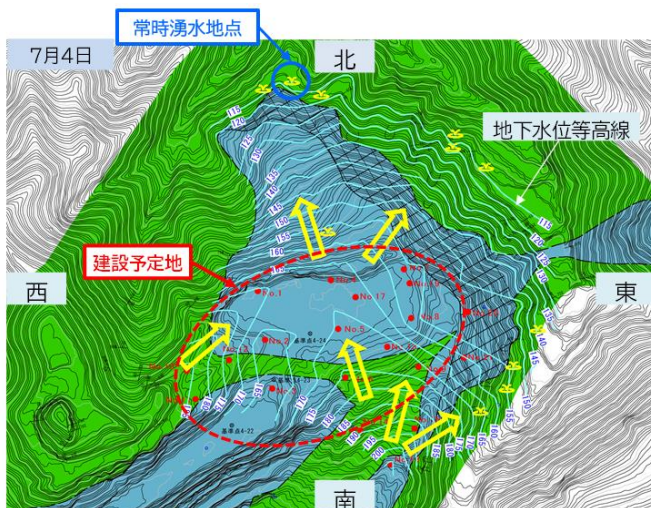
調査項目	調査結果
<地下水環境基準項目> ⇒人の健康を保護する上で維持されることが望ましい地下水の基準	・カドミウム ・鉛 ・ヒ素 等  全ての調査地点において、全ての項目で環境基準を満足していました。
<水道水質基準項目> ⇒長期的な観点から安全性を高めるため、生涯にわたって毎日飲み続けても健康に問題のない基準値	・一般細菌 ・大腸菌 ・アルミニウム及びその化合物 ・マンガン及びその化合物 等  調査時期により一部の調査地点で、一般細菌又は大腸菌、もしくはその両方が基準値を超過していました。
<その他の項目（参考指標）> →上記項目以外で、参考のため把握した項目	・EC（電気伝導率） ・カリウムイオン ・重碳酸イオン 等  参考指標のため、基準値はありません。

#### 地下水（流れ）の調査結果

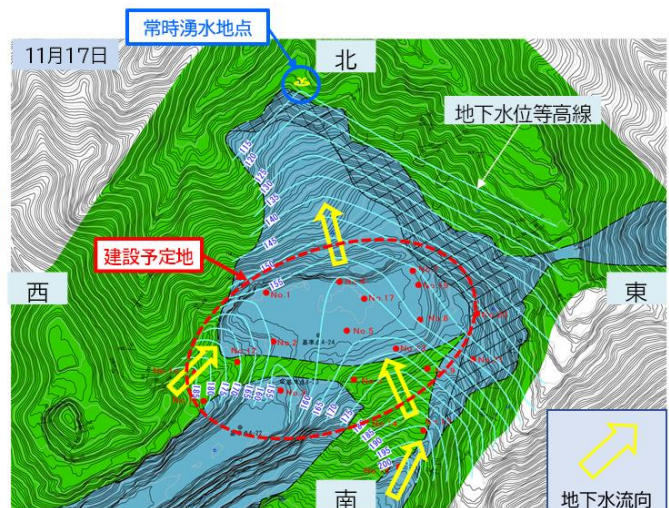
調査結果
・高水位時と低水位時の両方の時期において、南及び西の斜面から流入しています。 ・高水位時には、建設予定地から北方及び東方の斜面に流れ、低水位時は北方の常時湧水地点に向かって流れる形態となっています。

#### 【環境基準等の目標値】

- 「水質汚濁に係る環境基準について（環境庁告示）」に規定された基準値以下
- 「地下水の水質汚濁に係る環境基準について（環境庁告示）」に規定された基準値以下



【高水位時（雨量が多い時期）の地下水の流れ】



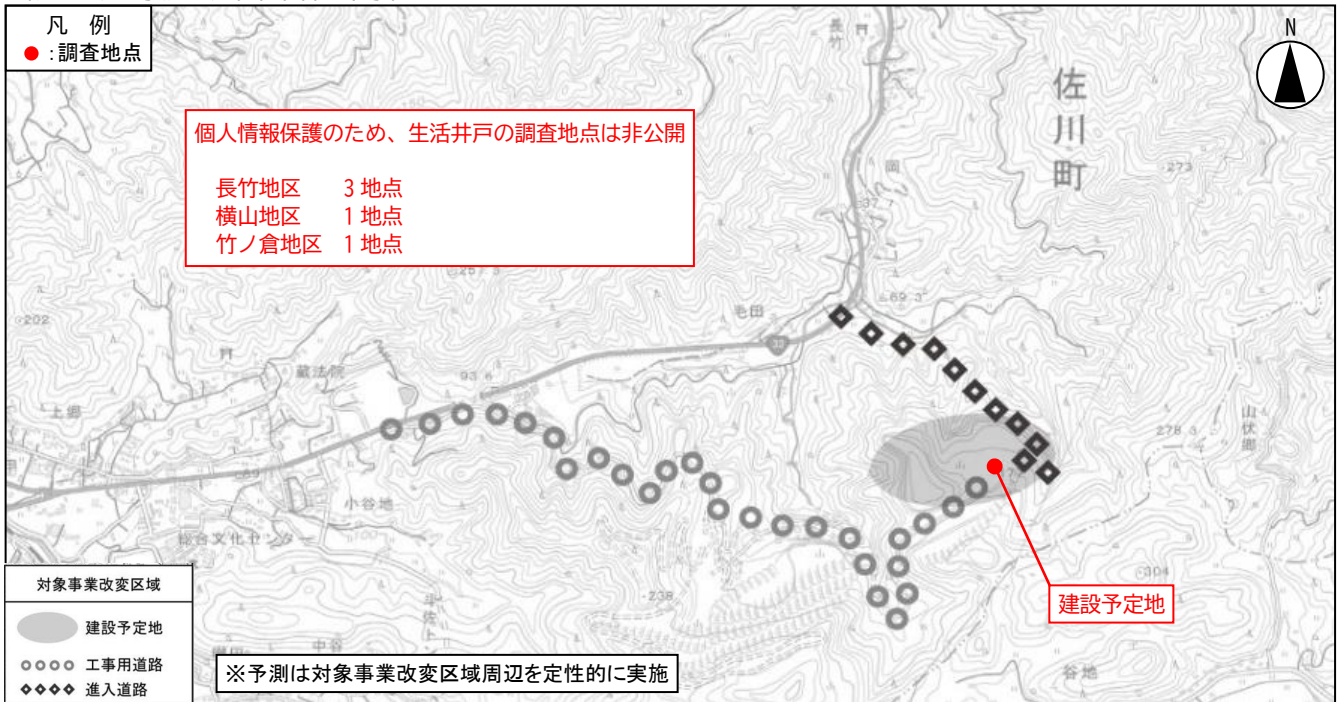
【低水位時（雨量が少ない時期）の地下水の流れ】

### 2.予測・評価の結果

予測結果	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・掘削により一部の地下水の流動や水質に影響を及ぼす可能性が推測されます。また、掘削等により発生する濁水の一部が地下水に流入し、影響を及ぼす可能性が推測されます。</li> <li>・しかし、建設予定地の地下には、多量の地下水が存在し、流動や水質に及ぼす影響はわずかであること、濁水は可能な限り場外へ排出する計画であるため、影響はわずかであると予測されます。</li> <li>・これらのことから、本事業による環境への「影響は小さい」と予測されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予測の結果、「影響は小さい」と予測されたため、環境保全措置として「沈砂池の設置」を講じた上で事業を実施します。</li> <li>・環境保全措置を講じるにあたっては、効果を検証するため事後調査を行うとともに、専門家等の意見や指導を得ながら、適切に実施します。</li> <li>・これらのことから、環境への影響は、<b>回避又は低減が図られている</b>と評価しています。</li> </ul>

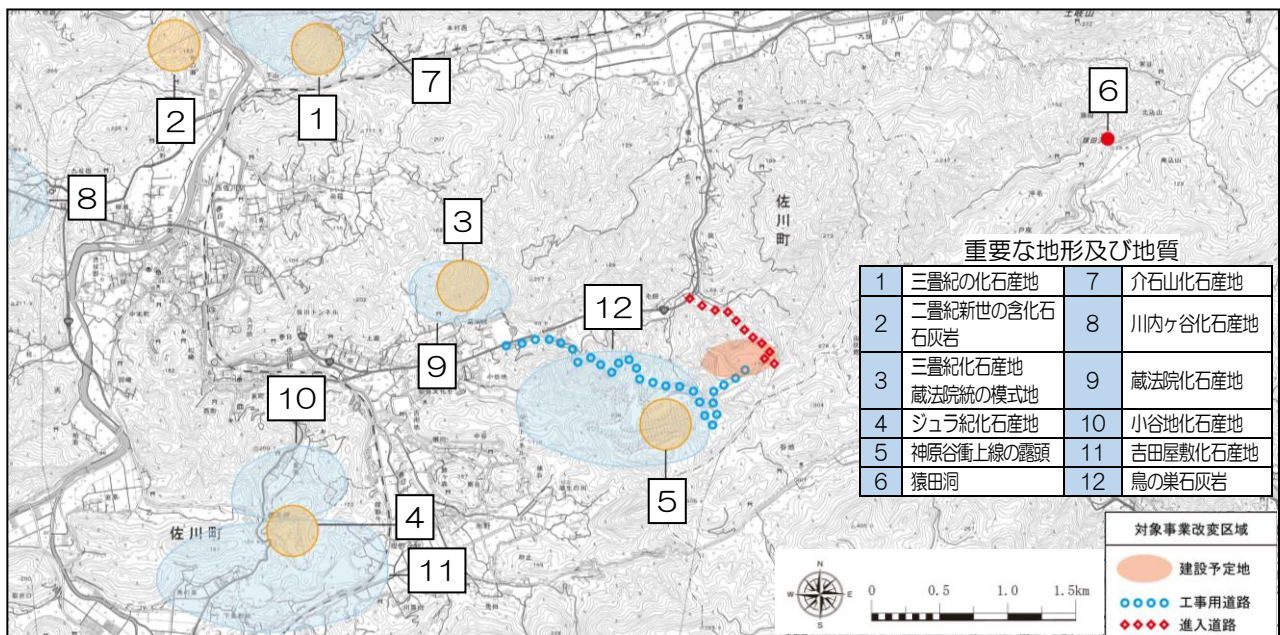


<調査地点、予測地点位置図(地下水)>



◎地形及び地質

1.環境の現況



2.予測・評価の結果

予測結果	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>建設予定地及び工事用道路周辺には、化石産出地が広がっており、事業による改変により規模の縮小が懸念されますが、本事業は、化石産出地を避けられた計画となっていることや、周辺には同様の産出地が複数あること、採掘された化石はすでに多くが保存されていることから、産出地の規模の縮小及び化石の消失は最小限に抑えられると推測されます。</li> <li>よって、本事業による環境への「影響は極めて小さい」と予測されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地形及び地質への影響は「極めて小さい」と予測されており、加えて、有識者から影響は「極めて小さい」との見解が得られていることから、環境への影響は、<b>回避又は低減が図られている</b>と評価しています。</li> </ul>



◎動物

1.環境の現況(現地調査による確認種の概要)

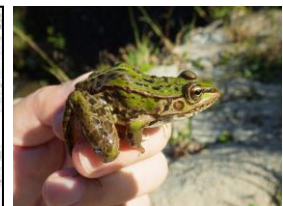
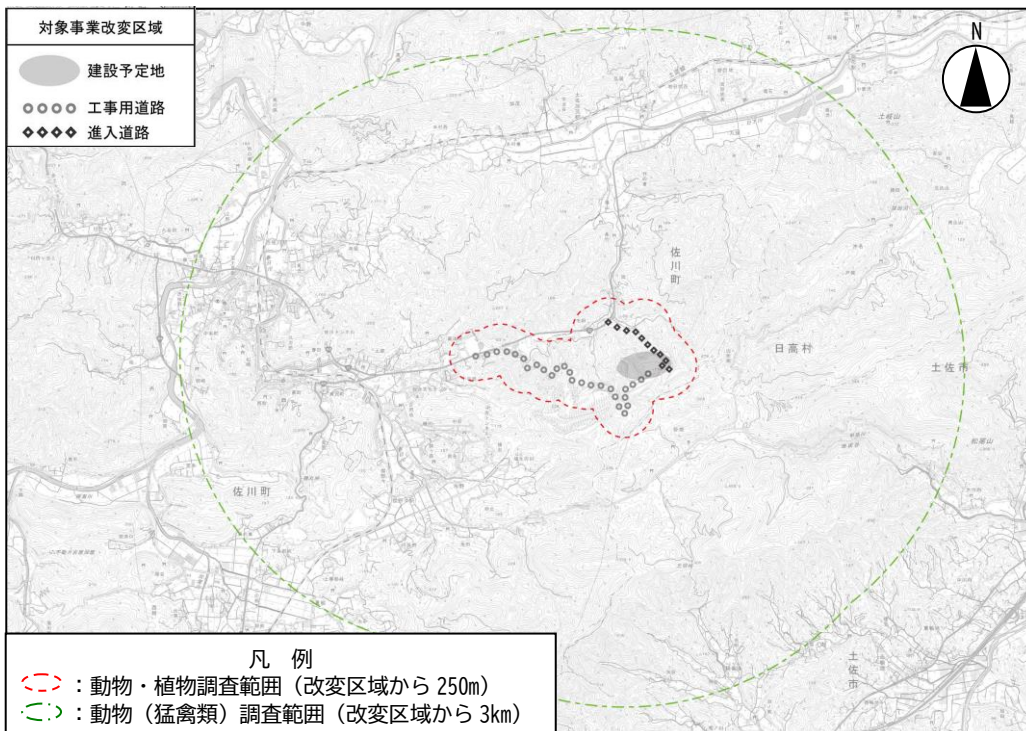
生物群	確認種数	主な確認種
哺乳類	6目10科14種 (重要種は1種)	コウベモグラ、キクガシラコウモリ、ノウサギ、ムササビ、アカネズミ、ヒメネズミ、カヤネズミ、タヌキ、ホンDOIタチ、ニホンアナグマ、ハクビシン、イノシシ、 <b>ヒナコウモリ科</b> 等
鳥類 (猛禽類含む)	11目30科73種 (重要種は23種)	<b>ヤマドリ</b> 、 <b>オシドリ</b> 、コガモ、 <b>ミサゴ</b> 、 <b>オオタカ</b> 、 <b>サシバ</b> 、 <b>クマタカ</b> 、 <b>フクロウ</b> 、カワセミ、モズ、カケス、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、 <b>オオムシクイ</b> 、オオルリ、スズメ、ホオジロ、 <b>アオジ</b> 等
両生類	2目6科10種 (重要種は2種)	<b>アカハライモリ</b> 、ニホンヒキガエル、ニホンアマガエル、タゴガエル、ヤマアカガエル、 <b>トノサマガエル</b> 、ツチガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエル
爬虫類	2目9科13種 (重要種は2種)	<b>ニホンイシガメ</b> 、ミシシippアカミミガメ、 <b>ニホンスッポン</b> 、ニホイヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
昆虫類	20目214科840種 (重要種は10種)	ヤマサナエ、オニヤンマ、チョウトンボ、アキアカネ、ヒメカマキリ、クマゼミ、 <b>ハルゼミ</b> 、ヘビトンボ、アゲハ、 <b>コガタノゲンゴロウ</b> 、カナブン、ゲンジボタル、ヒメスズメバチ、ニホンミツバチ等
陸産貝類	4目19科42種 (重要種は5種)	<b>ベニゴマオカタニシ</b> 、ヤマタニシ、アズキガイ、キセルガイモドキ、 <b>トサシリボソギセル</b> 、ヤマナメクジ、カサキビ、キビガイ、 <b>ヒラベッコウ</b> 、ノナメクジ、コベソマイマイ、トサマイマイ、 <b>ヒラコウペマイマイ</b> 、セトウチマイマイ、オナジマイマイ等

※太字は重要種又は重要種の可能性がある種の一部です。

2.予測・評価の結果

予測結果	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 予測の結果、1種の重要種について生息、繁殖への影響が発生する可能性があり、「<b>影響が大きい</b>」と予測されます。</li> <li>• その他の重要種については、生息、繁殖への影響がほとんどないことから、「<b>影響は極めて小さい</b>」と予測されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 予測の結果、「<b>影響が大きい</b>」と判断された重要種(1種)については、<b>環境保全措置として「繁殖期を避けた施工」「段階的な施工」「防音シートの採用」のいずれかを対象種の生息状況に応じて講じた上で事業を実施</b>します。</li> <li>• また、環境保全措置を講じるにあたっては、効果を検証するための事後調査を行うとともに、専門家等の意見や指導を得ながら、適切に実施します。</li> <li>• これらのことから、環境への影響は、<b>回避又は低減が図られている</b>と評価しています。</li> </ul>

<調査地点、予測地点位置図(動物、植物、生態系)>



トノサマガエル



コガタノゲンゴロウ



サシバ

## ◎植物

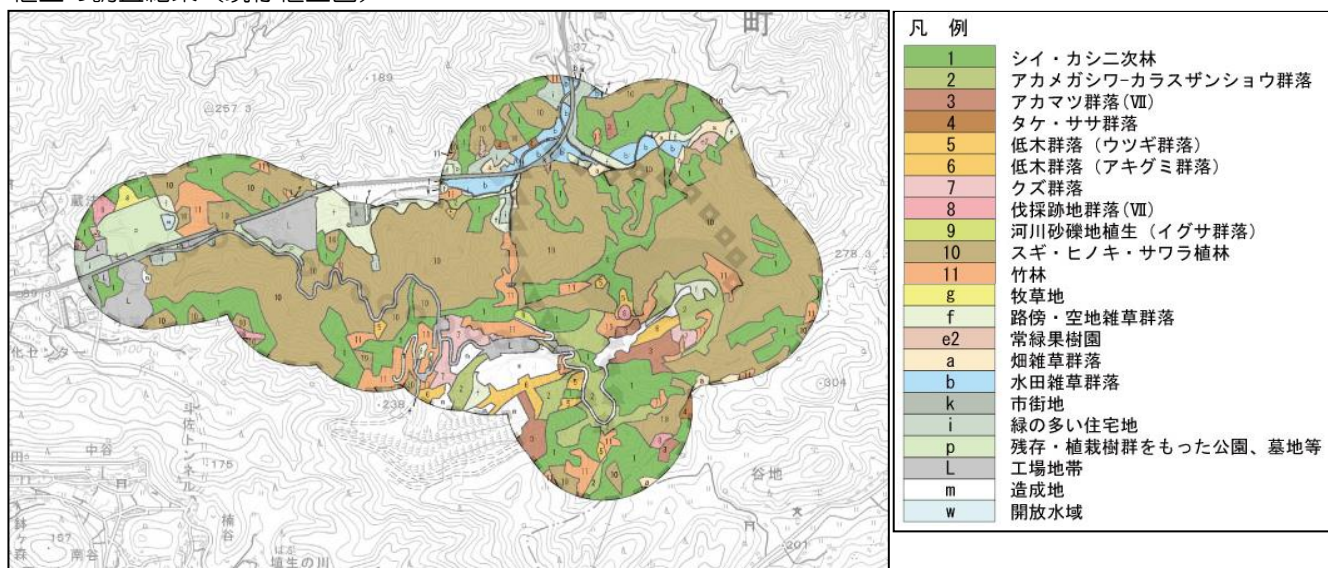
### 1.環境の現況(現地調査による確認種の概要)

#### 植物相

分類	主な確認種
植物相 145科743種 (重要種は27種 (逸出3種含む))	トウゲシバ、キジノオシダ、モエシマシダ、ヒロハイヌワラビ、サイゴクベニシダ、 <b>タキミシダ</b> 、イワヒトデ、ヤマコウバシ、カエデコロ、 <b>キンラン</b> 、シュロ、コゴメスゲ、カヤツリグサ、カンチク、アシボソ、ツクシスズメノカタビラ、ムベ、マルバマンネングサ、 <b>クマガイソウ</b> 、ナツフジ、ヤブマオ、カナメモチ、シリブカガシ、 <b>ホンゴウソウ</b> 、スミレ、ヤマハゼ、ワサビ、アレチギシギシ、スベリヒユ、クロハイ、クチナシ、マルバルコウ、ヒロハスズメノトウガラシ、ハマクサギ、 <b>ヒナノキンチャク</b> 、ノアザミ、オオジシバリ、ケヤマウコギ等

※太字は重要種の一部です。

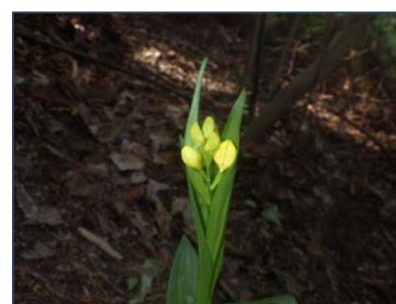
#### 植生の調査結果(現存植生図)



ヒナノキンチャク



クマガイソウ



キンラン

### 2.予測・評価の結果

予測結果	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 予測の結果、5種の重要種について生育への影響が発生する可能性があり、「影響は大きい」又は「影響は小さい」と予測されます。</li> <li>• その他重要種については、生育への影響がほとんどないもしくはないことから、「影響は極めて小さい」又は「影響はない」と予測されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 予測の結果、「影響が大きい」又は「影響は小さい」と判断された重要種(5種)について、<b>環境保全措置として「移植」又は、「播種による増殖」を講じた上で事業を実施します。</b></li> <li>• 環境保全措置を講じるにあたっては、専門家等の意見及び指導を得ながら、適切に実施します。</li> <li>• これらのことから、環境への影響は、<b>回避又は低減が図られている</b>と評価しています。</li> </ul>

◎生態系

1.環境の現況(地域を特徴づける生態系の注目種、群集とその選定理由)

生態系	注目種・群集		選定理由
水田・畑地・水域生態系	上位性	タヌキ	森林と里山が混在する環境を好んで生息域とする種であり、栄養段階の上位に位置し、生息基盤の面積要求性が大きい種である。
		イタチ属	田園や河川を生息環境とする種であり、栄養段階の上位に位置し、生息基盤の面積要求性が大きい種である。
		サギ類	水田や河川を主な生息域とする種であり、栄養段階の上位に位置し、生息基盤の面積要求性が大きい種である。
	典型性	アオダイショウ	平地から山地にかけての樹林・農地を生息環境とする種であり、高次消費者の餌となっている。また、水田や耕作地における生物間相互作用及び多様性の要となっている種の一つである。
		ヌマガエル	水田を主な繁殖場とする種であり、高次消費者の餌となっている。また、水田における生物間相互作用及び多様性の要となっている種の一つである。
		バッタ類	畑地・路傍の草地を主な生息域とする種であり、高次消費者の餌となっている。また、草地における生物間相互作用及び多様性の要となっている種の一つである。
		ヨシノボリ類	河川を主な生息域とする魚類の代表種であり、高次消費者の餌となっている。また、河川周辺における生物間相互作用及び多様性の要となっている種の一つである。
特殊性	モモジロコウモリ	市街地やその郊外の民家などの建物や高架下の隙間など特殊な環境を利用し、生息が特殊な環境に限定される種群である。	
森林生態系	上位性	ニホンアナグマ	森林を主な生息域とする種であり、栄養段階の上位に位置し、生息基盤の面積要求性が大きい種である。
		フクロウ	低～中山地を主な生息域とする種であり、栄養段階の上位に位置し、生息基盤の面積要求性が大きい種である。
	典型性	ウグイス	林縁～低山地森林を主な生息域とする種であり、高次消費者の餌となっている。また、樹林における生物間相互作用及び多様性の要となっている種の一つである。
		ニホンマムシ	森林を生息環境とする種であり、高次消費者の餌となっている。また、森林における生物間相互作用及び多様性の要となっている種の一つである。
		タゴガエル	森林において、特に沢沿いや湿潤な林床を主な生息域とする両生類の代表種であり、高次消費者の餌となっている。
		シャクガ類	森林を主な生息域とする種であり、高次消費者の餌となっている。
		シイ・カシ二次林	森林に広く分布する植生であり、森林の動植物相を支える上で重要な生息・生育基盤である。
	特殊性	ヒメヒゴタイ	一般的には山地の林縁部・草地等に生育している。四国南部では石灰岩地・蛇紋岩地等においても多く生育が確認されている。










2.予測・評価の結果

予測結果	評価結果
<p>・予測の結果、本事業の実施による生態系の予測対象種 16 種に対する環境への影響の程度は、「<b>影響は極めて小さい</b>」と予測されます。</p>	<p>・生態系への影響は「<b>極めて小さい</b>」と予測されており、環境への影響は、<b>回避又は低減が図られている</b>と評価しています。</p>



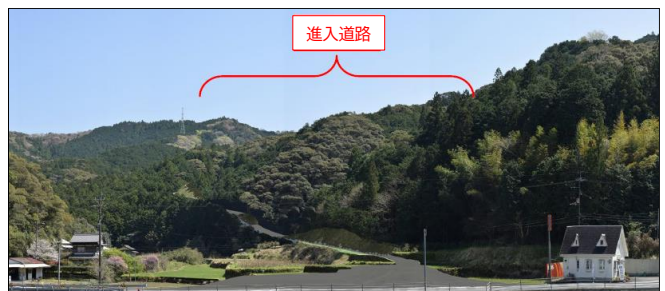
◎景観

1.環境の現況

<p>1.JR土佐加茂駅（予測評価地点）</p> 	<p>6.長竹集落（予測評価地点）</p> 
<p>2.JR土佐加茂駅横（予測評価地点）</p> 	<p>7.国道33号峠</p> 
<p>3.国道33号</p> 	<p>8.県道291号</p> 
<p>4.長竹公民館</p> 	<p>9.谷地集落</p> 
<p>5.谷農道（予測評価地点）</p> 	

2.予測・評価の結果

予測結果
<p>○JR土佐加茂駅、JR土佐加茂駅横</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠景となり、視野に占める処分場の割合は極めて小さく、仰角も小さいことから圧迫感はありません。</li> <li>・植生の復元によりスカイラインの分断はないことから、「影響は極めて小さい」と予測されます。</li> </ul>
<p>○谷農道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進入道路が近景となり、処分場は視野に入りません。処分場関連施設（処分場、進入道路）は植生の復元により目視されないことから、「影響は極めて小さい」と予測されます。</li> </ul>
<p>○長竹集落</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・処分場は視野に入りません。進入道路の盛土・切土法面は植生の復元により目視されないことから、「影響は極めて小さい」と予測されます。</li> </ul>
評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観への影響は「極めて小さい」と予測されているとともに、基本計画の検討段階から、可能な限り直接的な改変がないよう配慮し、施設の高さを極力低く抑えることで、景観への影響に配慮した計画としています。</li> <li>・このことから、環境への影響は、回避又は低減が図られていると評価しています。</li> </ul>



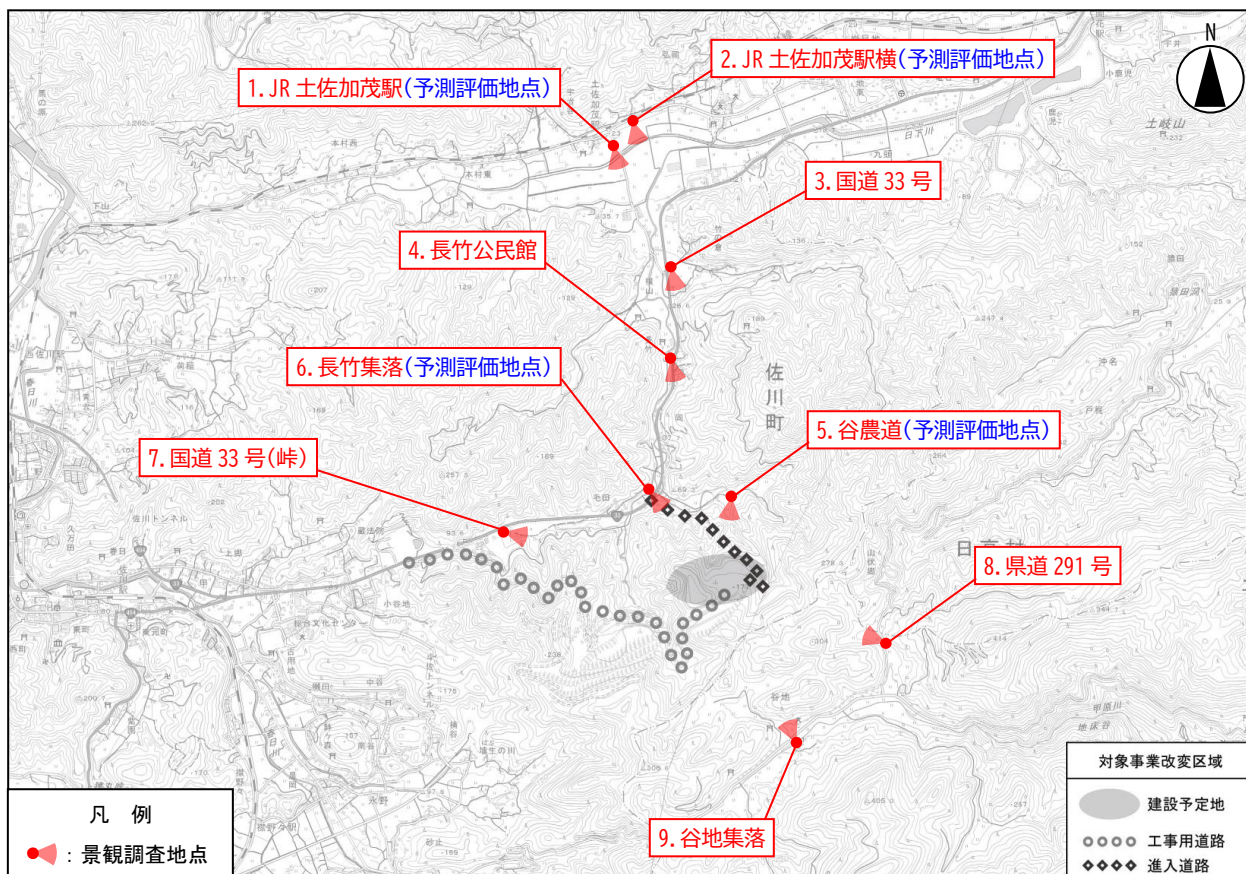
【長竹集落からの眺望】

眺望景観  
の変化（一例）



【土佐加茂駅横からの眺望（拡大）】

<調査地点、予測地点位置図(景観)>





## 環境影響評価準備書の縦覧について

環境影響評価準備書の詳しい内容は、次の縦覧場所でご覧いただけます。

**縦覧期間** 令和3年9月15日(水)から令和3年10月14日(木)まで  
(8:30～17:15 まで。土曜日、日曜日及び祝日は除きます。)

### 縦覧場所

- 佐川町役場 町民課
- 高知県庁 本庁舎 1階 県民室
- 高知県庁 西庁舎 5階 林業振興・環境部 環境対策課
- 安芸福祉保健所
- 中央東福祉保健所
- 中央西福祉保健所
- 須崎農業振興センター
- 幡多福祉保健所
- (公財)エコサイクル高知 佐川町事務所 (中央西農業振興センター高吾農業改良普及所内)

また、高知県ホームページ、(公財)エコサイクル高知ホームページからもご覧いただけます。

## 意見提出用紙の提出方法について

準備書についてご意見のある方は、令和3年9月15日(水)から令和3年10月14日(木)  
(当日消印有効)までに意見をお寄せください。

意見提出用紙には、住所、氏名、電話番号をご記入のうえ、ご意見(環境保全の見地から、日本語により、意見の理由を含めて記載してください。)を明記し、下記まで郵送又はファクシミリ、電子メールにて送信してください。

意見提出用紙は縦覧場所に用意しているほか、高知県ホームページ又は(公財)エコサイクル高知のホームページからもダウンロードできます。

### お問い合わせ先、意見提出先

○公益財団法人 エコサイクル高知 佐川町事務所

TEL : 0889-22-4744 FAX : 0889-22-4764

メール : info@ecokochi.or.jp

〒789-1201 高岡郡佐川町甲 1650 番1号

○高知県 林業振興・環境部 環境対策課

TEL : 088-821-4595 FAX : 088-821-4520

メール : 030801@ken.pref.kochi.lg.jp

〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7番52号

※どちらの宛先にお送りいただいても結構です。